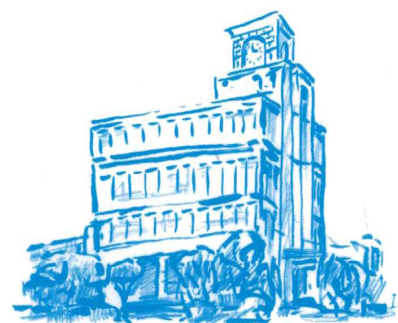


GIGAスクール構想で変わるこれからの学校

伊丹市立総合教育センター
所長 太田 洋子

「小・中学校PC一人一台」昨年11月の突然の報道に私たちは驚きました。

これまでも、文部科学省の「教育のICT化に向けた環境整備5カ年計画（2018～2022年）」において、3クラスに1クラス分の学習者用コンピュータの配置が示されていました。しかし、教員を対象に実施したOECD「2018年教育環境の国際比較」において、「中学校で生徒に課題や学級での活動にICTを活用させているか」という質問に対して、日本は17.9%、参加



48国中47位という惨憺たる結果でした。これまで、私たちは日本は科学立国だと思ってきましたが、いつの間にか、ICT後進国になっていたのです。ちなみにトップのデンマークは90%、世界の平均は51.3%です。ただ、同時期に行われたPISA調査（15歳の生徒対象）では「多人数オンラインゲームで遊ぶ」「チャットをする」子どもの割合は、参加国中1番ですから、日本の子どもたちにとってコンピュータは学習ツールよりも遊びのツールでしかないという実態も出てきます。

私自身は「2018年教育環境の国際比較」において「批判的に考える必要のある課題を与えるか」という質問への回答数が気になりました。日本は12.6%と参加国中最下位。世界の平均は61.1%ですから、日本の教育は子どもたちに「クリティカル・シンキング（批判的思考）」を育てるといふ部分で大きく世界に後れを取っていることがわかります。そういえば、中学生を見ていて、大人の言うことを素直に受け入れる子が増えたなと感じます。でも、「そもそもこれでいいの？」「なぜそうなる？」といった思考を持つ生徒にはなかなか出会えません。でも、それは子どもに責任があるのではなく、私たち教師が子どもたちにそのような力を育ててこなかったのだと調査結果から思います。

さて、今回「GIGAスクール構想」として、Society5.0時代を生きる子どもたちに、一人一台の端末を整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させるという方針が示されました。高速のネット環境や端末はインフラの一つとなる時代がいよいよやってきます。今後、伊丹市でも国の方針を見据え、整備を進めていく予定です。

一人一台の端末の配備は、子どもたちに瞬時に多くの情報手に入れることを可能にします。一方で、「多くの情報から、必要な物を見つける力」「情報には正しいものとそうではないものが混在しており、正しい情報を見抜く力」を育てないと、子どもたちは情報の渦に翻弄されてしまうのではないかと危惧します。ICTに堪能というよりも、「授業のここでICT機器を使うと、〇〇できるようになる」という授業構想力のある教師がこれからますます必要なのだと思います。

Global and Innovation Gateway for All

GIGAスクール構想の実現、はじまる!!

～誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された、創造性を育める学びの場の実現へ～

「学校における1人1台端末環境」
文部科学省公式プロモーション動画公開中です。
伊丹市イントラネットDataWebの「ICT活用の推進」のページから閲覧できます。ぜひご覧ください!



学習指導要領改訂の方向性

小学校:2020年度全面实施、中学校:2021年度全面实施、
高等学校:2022年度から年次進行で実施

予測できない変化を前向きに受け止め、主体的に向き合い・関わり合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力を子どもたちに育む学校教育の実現を目指す。

新学習指導要領の情報教育・ICT活用教育関係ポイント

- 情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け
- 学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実を明記

ICTを活用した学習方法

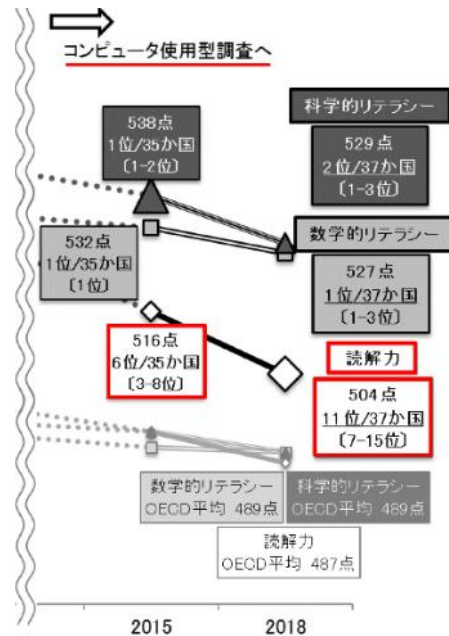


学習形態	ポイント	実践事例
一斉学習	教員による教材の提示	画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用
個別学習	個に応じる学習 調査活動 思考を深める学習 表現・制作	一人一人の習熟の程度等に応じた学習 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習 マルチメディアを用いた資料、作品の制作
協働学習	発表や話し合い 協働での意見整理 協働制作	グループや学級全体での発表・話し合い 複数の意見・考えを議論して整理 グループでの分担、協働による作品の制作

PISA2018調査の結果

- 読解力は、高得点のグループに位置するが、前回より平均得点・順位が有意に低下。
⇒コンピュータ画面上での長文読解の慣れなどの要因が複合的に影響した可能性

読解力とは、自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を發揮させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むことのできる力。



国の動き

【令和元年6月28日 学校教育の情報化の推進に関する法律 公布・施行】

【令和元年10月10日 衆議院予算委員会 萩生田文部科学大臣答弁】

今後とも、関係省庁や産業界と連携しながら、令和の時代にふさわしい、といいますのは、平成の時代はパソコンやタブレットは学校にあったらいいなという教材でしたけれども、いよいよ令和の時代はですね、なくてはならない教材として、しっかりICT環境の実現を図ってまいりたいと思います。

【令和元年11月13日 経済財政諮問会議 安倍議長発言】

パソコンが1人当たり1台となるのが当然だということを、やはり国家意思として明確に示すことが重要。

【令和元年12月5日閣議決定 安心と成長の未来を拓く総合経済対策】

国の将来は何よりも人材にかかっている。初等中等教育において、Society 5.0 という新たな時代を担う人材の教育や、特別な支援を必要とするなどの多様な子供たちを誰一人取り残すことのない一人一人に応じた個別最適化学習にふさわしい環境を速やかに整備するため、学校における高速大容量のネットワーク環境 校内LAN の整備を推進するとともに、特に、義務教育段階において、令和5年度までに、全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指すこととし、事業を実施する地方公共団体に対し、国として継続的に財源を確保し、必要な支援を講ずることとする。あわせて教育人材や教育内容といったソフト面でも対応を行う。

- GIGAスクール構想の実現 (Global and Innovation Gateway for ALL) (文部科学省)
- EdTech導入実証事業 (経済産業省)
- 教育現場の課題解決に向けたローカル5Gの活用モデル構築 (総務省)

先生: 個々の子供の状況を客観的・継続的に把握 (センシング技術)

児童生徒: 意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習

児童生徒が自分のノートだけでなく、他の児童生徒のノートの閲覧・編集ができる!

児童生徒が書いている解答をリアルタイムに把握することができる!

今までの授業で作った教材は、PDF保存して取り込むことができます。

個々の児童生徒に応じたよりきめ細やかな指導

ノートにみんなで書きあって、グループのまとめなどを作成、発表ができます。

ICTが文房具と同じように活用されることで情報活用能力が育成されるとともに、主体的・対話的な深い学び(アクティブ・ラーニング)に大変効果があります。

ただ今実施中 タブレット研修！

不安なくタブレットを活用してもらえよう、様々な研修を実施しています。

校長先生向け研修



ICT活用推進教員(リーダー)担当者や初任者の研修



各校へのアウトリーチ型研修



研究授業での活用



今後も、タブレットの使い方に加え、効果的な活用についても研修を行っていきます！
また、「使いたいけど、どう操作したらよいか、わからない。」「授業で使いたいので、相談したい。」など先生方のお困りごとにも個別に対応していきます！

研修を終えて心に残ったのは、

「普段の授業ではなかなか発表しにくい子の意見も、タブレットでなら気づいてあげることができる」という言葉です。ぜひ今まで気づけなかった意見に耳を傾けられる道具の一つとして活用していただけたらと思います。

発行 伊丹市立総合教育センター

所在地 〒664-0898

伊丹市千僧1丁目1

平日(水以外) 9:00~21:00

水曜日 9:00~17:30

土曜日 9:00~17:00

電話 072-780-2480

FAX 072-780-2482

休館日 日曜・祝日、年末・年始

ホームページ <http://www.itami.ed.jp/>

教育相談

電話 072-772-6171 (電話相談)

平日:10:00~19:00 土曜:13:00~17:00

072-780-2484 (来所相談)

平日:10:00~17:00 ※予約制です

お子様に関する様々な悩みや課題、問題等の相談に応じています。

兵庫県教育委員会ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます→

こまったことがあったらすぐ相談

